

# 平成 29 年度 第 1 回 十和田市病院事業経営審議会 議事録

- 日 時 : 平成 29 年 8 月 7 日 (月) 16:00~17:00
- 場 所 : 十和田市立中央病院 別館 2 階講堂
- 出席者 (委員) : 石橋義雄、山端博、今泉勝博、沢目正俊、工藤正廣、小嶋泰彦、  
浅原秀一、立崎享一、古川あき
- その他の出席者 : 松野事業管理者、丹野院長、工藤副院長、接待事務局長、築場看護局長、  
栗山薬剤長、川村技師長、森技師長心得、清水技師長、須藤技師長、  
石井主任臨床工学技士、遠藤医事課長、下川原業務課長
- 次第 : 1. 開会  
2. 委嘱状交付  
3. 病院事業管理者あいさつ  
4. 病院長あいさつ  
4. 会長・副会長の選任  
5. 議事  
報告 1. 平成 28 年度病院事業会計決算見込について  
報告 2. 平成 29 年度病院事業会計予算及び第 1 四半期の実績について  
6. 閉会

下川原業務課長	<p>ご案内の時間となりましたので、ただ今から第1回病院事業経営審議会を開催いたします。私は本日の司会を務めます、業務課長の下川原でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。それでは経営審議会の開会に先立ちまして、今回お配りした資料の確認をさせていただきます。まず、以前郵送させていただきました 10 ページものの資料、本日お配りいたしました「次第」「委員名簿」「審議会の条例」「座席図」、それとカラー刷りのものですが「診療科別収益」「A3版の今年度の状況表」でございます。不足、落丁などございませんでしょうか。</p> <p>それではここで委嘱状の交付を行います。管理者が皆様のお席に参りますので、その場でご起立の上、お受け取りくださいますようお願いいたします。石橋様。</p>
松野事業管理者	<p>委嘱状。石橋義雄様。十和田市病院経営審議会委員を委嘱します。期間平成 29 年 8 月 7 日～平成 31 年 3 月 31 日まで。十和田市病院事業管理者 松野正紀。よろしくお願い申し上げます。</p>
下川原業務課長	<p>山端博様。</p>
松野事業管理者	<p>委嘱状。山端博様。以下同文です。よろしくお願い申し上げます。</p>
下川原業務課長	<p>今泉勝博様。</p>
松野事業管理者	<p>委嘱状。今泉勝博様。以下同文です。よろしくお願い申し上げます。</p>
下川原業務課長	<p>沢目正俊様。</p>
松野事業管理者	<p>委嘱状。沢目正俊様。以下同文です。よろしくお願い申し上げます。</p>
下川原業務課長	<p>工藤正廣様。</p>
松野事業管理者	<p>委嘱状。工藤正廣様。以下同文です。よろしくお願い申し上げます。</p>



<p>丹野院長</p>	<p>臨床工学科「石井」でございます。  事務局長の「接待」でございます。  医事課長の「遠藤」でございます。よろしく願いいたします。  それではこれより組織会に移ります。  初めに仮議長を決めてから、会長、副会長の選出をお願いいたします。暫時、院長に仮議長を務めて頂きたいと思いますが、よろしいでしょうか。  (異議なしの声)  それでは院長よろしく願いいたします。  それでは、暫時の間仮議長を務めさせていただきます。次第にあります、会長・副会長の選任について議題といたします。会長・副会長につきましては、経営審議会条例第3条第1項の規定により、議員の互選によって定めるとございます。  まず会長についてはいかがいたしましょうか?  (仮議長、事務局一任の声)  はい、それでは仮議長・事務局一任というかたちでよろしいでしょうか。  (異議なしの声)  ありがとうございます。それでは、案といたしまして石橋委員を会長に推したいと考えておりますが、いかがでしょうか。  (異議なしの声)  はい、それでは異議なしと認めさせていただきます。  それでは、経営審議会条例第3条第2項の規定により、会長が議長となりますのでここで議事を交代させていただきます。それでは石橋会長よろしく願いいたします。</p>
<p>石橋会長</p>	<p>ただ今、会長に選任いただきました、十和田市議会民生福祉常任委員長の石橋でございます。よろしく願い申し上げます。  それでは、次に副会長の選任をしたいと思いますが、いかがいたしましょうか。  (議長指名の声あり)  議長指名ということでよろしいでしょうか。  (異議なしの声あり)</p>
<p>小嶋委員  下川原業務課長  石橋会長</p>	<p>それでは、小嶋委員をお願いいたします。  よろしく願いします。  会長にも一言ご挨拶をお願いいたします。  わかりました。会長挨拶ということでありますので、一言ご挨拶申し上げます。先ほどは、当経営審議会会長にご推挙いただきましてありがとうございます。未熟者ではありますが、一生懸命務めて参りますのでよろしく願いいたします。先ほど、管理者、院長からお話がありましたが、病院経営も非常に苦しいという状況が続いているようであります。もちろん、私ども市議会におきましても、毎回、必ずとっていい程、病院経営とか病院の体制については、質問が出ます。病院側の答弁を聞いておりましても、非常に苦しい答弁をしているなど感じていますが、私も日頃から言っておりますが、市民からの苦情があるというのは、私たちの病院だという思いからの意見であり、逆に激励をして頂いていると思っております。先般も事務局長と話をしましたが、今年に入って入院患者も増えているし、先生がたも来てくれたということで、いい方向に向いているということを伺っていま</p>

下川原業務課長

す。私どもも期待をしておるところですが、経営審議会としても忌憚のない意見を頂戴して、病院経営がさらにいい方向に向かっていけるよう協力していければと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

それでは会議に移らせていただきます。「報告1 平成28年度病院事業会計決算見込について」事務局から説明をお願いいたします。

それでは「報告1 平成28年度病院事業会計決算見込について」私から説明させていただきます。お手元の資料の1ページをご覧ください。

まず「1.収益的収支」と示してございます。

平成28年度決算見込、平成27年度決算、平成26年度決算の並びになってございます。簡単に数字の方を説明させていただきます。収益的収入、平成28年度決算見込は73億8,890万6千円で平成27年度決算に比べて5億6,539万2千円の減額となっております。そのうち、医業収益は、66億3,688万5千円で平成27年度と比較しますと、2億6,866万6千円の減となっております。続きまして、収益的支出のほうでございしますが、82億8,820万7千円で増減といたしましては1億1,229万1千円の減となっております。そのうち医業費用は77億6,559万2千円で5,066万1千円の減となっております。その差引、収支でございしますが、8億9,930万1千円の赤字となっております。平成27年度と比べますと4億5,310万1千円の赤字額の増額という結果となっております。医業収支につきましては、11億2,870万7千円の赤字で、増減で申し上げますと2億1,800万5千円の赤字額の増額となっております。

その下でございしますが、現金ベースでの収益的収支です。これは、減価償却費など実際の現金の支出がないものを差し引いて、実際に単年度の現金での収支はどうだったかとういことを示しております。収益的収支では5,762万8千円の黒字となっております。27年度と比べますと、4億1,822万1千円の黒字幅の減額となっております。うち、医業収支は、4,348万円の赤字となっております。平成27年度と比べますと1億9,997万5千円の減でございします。この医業収支につきましては、例年黒字を確保してまいりましたけれども、28年度につきましては赤字となりました。

その下、資本的収支にまいります。これは、医療機器あるいは建物などの収支でございしますけれども、資本的収入は、8億9,431万円となり平成27年度と比較しますと1億1,087万9千円の増額となっております。支出につきましては、10億7,062万4千円で平成27年度と比較して8,618万6千円の減となっております。平成28年度の収支は差引1億7,631万4千円の赤字となっております。平成27年度との比較増減は1億9,706万5千円の増となっております、平成27年度よりは赤字額が減ったという形になっております。

病院事業全体の収支、実質単年度資金収支を3番目に載せておりますが、平成28年度の単年度資金収支は、1億1,868万6千円の赤字となりました。その下の実質単年度資金収支は、3億5,204万4千円の赤字となっております。この部分を平成27年度と比較しますと、2億3,469万3千円の赤字幅の増という結果となりました。その下に、一般会計からの繰入額を載せてございしますので参考までに見ていただければと思います。

この赤字の原因につきましては、資料の9ページをご覧ください。常勤医師数の推移を載せてございします。平成25年度から29年度まで。今回は平成28年度の決算見込につ

	<p>いてご報告申し上げましたが、平成 27 年度と比べますと、33 名から 30 名と3名の減となりました。医師数の減は医業収益に及ぼす影響が非常に大きいため、これが主な原因ではないかなと私どもでは考えております。</p> <p>その次の A3版の資料でございますが、一番下の欄「単年度資金収支」をご覧ください。平成 18 年度からの推移を記載してございますが、平成 18 年度、平成 19 年度は赤字、平成 20 年度は7億余りの黒字、平成 21 年度は8億余りの赤字となっております。その次の平成 22 年度は16億8千万円余りの黒字となっておりますが、この年度につきましては、一般会計から32億4,764万円という多額の繰入金をいただいている影響で黒字となっております。その後、平成 23 年度から平成 25 年度までは黒字を計上してまいりましたが、平成 26 年度から再び赤字となり、平成 28 年度決算見込では3億5,204万4千円の赤字となり、27 年度の3倍近い赤字となっております。</p> <p>以上、平成 28 年度の決算見込につきまして報告いたします。</p>
石橋会長	<p>平成 28 年度決算見込についてご報告いただきましたが、質疑ございませんでしょうか。無いようですので、引き続きまして、報告2「平成 29 年度病院事業会計予算及び第1四半期の実績について」事務局から説明をお願いします。</p>
下川原業務課長	<p>それでは、私から平成 29 年度予算について説明いたします。その後、第1四半期の実績については、事務局長の接待から説明いたします。資料の2ページをご覧ください。</p> <p>今年度当初予算の入院収益については、48億2,352万9千円と平成 27 年度に比べて7,966万2千円の減額となっております。平成 28 年度に診療報酬改定がありましたけれども、予算編成段階ではこの影響が見積れないところがあったことから、多少多めの収益計上となりましたが、平成 29 年度は平成 28 年度実績がある程度把握できましたので、より現実的な計上となっております。平成 29 年度一般病床の入院患者数 224 人、診療単価 50,000 円、地域包括ケア病床は入院患者数 26 人、診療単価 34,500 円となっております。地域包括ケア病床は平成 29 年 2 月から開設しておりますので、本格実施ということでは今年度からとなります。入院患者数 224 人と 36 人を足しますと 260 人となり、ベット数で割り返しますと 80%の利用率を目指しております。</p> <p>外来収益につきましては、患者数の増を見込んでおりますので、22億2,229万3千円を計上いたしまして、平成 28 年度に比べて2億1,991万円の増となっております。これにつきましては、救急患者の受入れを積極的に図っていくということで診療報酬の増を見込んでございます。</p> <p>一般会計からの繰入金でございますが、13億5,068万9千円と平成 28 年度に比べて3,996万2千円の増額を見込んでおります。病院建設や医療機器購入に係る元利償還金について繰入れしていただくということで、市の財政当局との話し合いで決定してございます。次の「医療機器の購入」でございますが、1億円ちょうどでございます。平成 28 年度と比べますと1億5,380万円の減となっております。これまでの決算状況を見ますと、医療機器の購入は、やはり控えざるを得ないという前提で、各セクションからいろいろと希望は挙がってまいりますが、初めから1億円以内ということをお示したうえで、必要不可欠なものに限るということで進めております。企業債の借入ですが、医療機器は企業債を発行して購入しておりますが、同額の1億円となっております。企業債の償還は、29 年度は元金、利子をあわせて10億8,851万5千円と昨年度に比べ4,982万6千円の増とな</p>

接待事務局長	<p>っております。医療機器を購入しますとその翌年から返済が始まりますので、そういったことも考慮して、今年度は内容を吟味して、医療機器購入は 1 億円ということにしております。私からは以上でございますが、続きまして、事務局長の接待より説明いたします。</p> <p>それでは、私から、収支状況について引き続きご説明いたします。先ほどの資料 10 ページを今一度ご覧ください。ご説明いたしましたとおり、平成 28 年度決算見込の現金ベースでの収支は、3 億 5,204 万 4 千円の赤字となりましたが、実は昨年度予算のスタートの時点からすでに 4 億 4 千万円の赤字でスタートしております。それから比較しますと決算では約 3 億 5 千万円ですから、9 千万円ほどなんとか改善できたということがいえると思います。昨年度との大きな違いは、今年度の当初予算では、金額は少ないのですが現金ベースで 384 万 4 千円の黒字予算でスタートすることができました。ここが大きな違いでございます。そこで、本日お配りした、平成 29 年度の収支状況の資料をご覧ください。この表の一番左が当初予算額です。この 12 分の 1 の金額を各月に落とし込んで作成したのがこの表です。これにより、例えば 6 月、12 月の給与費など賞与で大きく膨らみますが、この影響を平準化したうえで、各月の収支状況ならびに年度末の収支状況を把握できるという表でございます。4、5、6月のところに網掛けしておりますが、これは実際の実績値でございます。また、7月の所も網掛けしているところは現時点での概算の稼働額の実績でございます。この結果、5月は1,900万円の黒字、4月と6月は残念ながら赤字となりまして、第1四半期の累計が一番右の欄の2,128万7千円の赤字でございます。5月の黒字の原因はやはり入院収益です。入院収益は目標額4億円としておりますが、これを上回ったのが大きな要因となっております。入院患者数ですが、平成28年度の1日当たりが228人、利用率が70%でありましたが、今年度は、4月が235人、5月が263人で81%、6月が256人で79%、7月は268人で83%と、これまでで最高の利用率となりました。外来収益が思ったほど伸びませんでした。入院収益が最高額ですので、おそらく5月並の収支は確保できると思っております。これにより赤字額の2千万は何とか解消できるのではないかと考えております。そして、この第1四半期の状況を見て、経費削減策も検討し、今年度なんとしても現金ベースでの赤字は解消したいと考えてございます。</p>
石橋会長 古川委員	<p>ただ今報告がありました内容についてご質問ございましたら発言をお願いいたします。</p> <p>今の報告を聞いておまして、83%の利用率を達成されてとのことで、大変努力されたんだろうなと思っております。先日、ある施設で認定看護師さんの講演を聞きましたが、素晴らしい講演でございました。皮膚の専門の内容でしたが、看護の視点、手当の仕方など観察力が素晴らしくて、目から鱗の内容でございました。このような看護が実際に現場で行われているとすれば、もっと患者さんも増えてくると思いますし、看護師さんはベツトサイドで患者さんに最も接触の多いところですので、今後とも実践で活用していただければと思います。</p>
築場看護局長 今泉委員 接待事務局長	<p>お礼申し上げます。がんばります。</p> <p>収支状況で、月々の特別損失に同じ数字が入っていますがこれでいいのですか。</p> <p>先ほどご説明しましたとおり、この欄につきましては、当初予算の額を単純に 12 分の 1 にした額を計上しております。予算額の変更があれば変えなければなりません。例えば6月とか 12 月のように経費が大きく増えた月だけに大きな赤字を計上しても、あまり意味のない赤字となりますので、特別損失も含め、年間で平準化してみた方がよい経費に</p>

石橋会長 工藤委員	<p>については、12分の1の額を計上しているのご理解ください。</p> <p>よろしいですか。他にございませんか。</p> <p>なかなか黒字にできないというのは、絶対的な医師の数が足りないというお話しでしたが、平成29年度は36人になったということですが、収支バランスをとるためには、どのくらいの医師数が必要とお考えなのか、これがまず1点と、先程ベットの利用率が80%を超えたということで、入院収益が上がることで収支の改善に繋がるということだと思いますので、大変素晴らしい事だと思いますが、ただし、現状の医師の数で一時的に無理をしたとしてもこれを継続できるのか、事故等に繋がることはないのか。病院建設をした時期に一時的に患者数が伸びた時期がありましたが、そのあと崩れたことがありました。そのあたり、病院として、収支バランスを取って存続していくためには、医師数も含めどのようにお考えなのか、お聞かせください。</p>
丹野院長	<p>あとどのくらい医師がいれば、トントンか、ということですが、今、13億位繰入金をいただいております。これを解消しようとするれば、今の医師の働きからいうと、あと常勤が10人位必要と考えています。全国的な統計では、医師1人1億と言われていますが、当院の医師はその1.5～1.6倍くらい稼いでくれています。その働きをそのまま維持していただければ、10人くらいと考えています。そして、現在、患者さんに来ていただいて80%位を維持できております。昨年の医師数30人で、今年は36人となりましたが、医業収益を医師数で割り返してみますと、ほとんど同じ額でありました。新しく来た医師も同じようなパフォーマンスをして頂いているということでございます。忙しさの度合いは診療科によって違いはございます。ちょっと働きすぎかなと感じるところはございますが、昨年度の先生方に比べて、今年の先生方が極端に働き過ぎているという状況ではないと思っております。</p>
工藤委員	<p>もう1点の質問についてですが、5月は80%を超えたということですが、これが現状の医師の数で通常としてできる事なのか、無理をしているという事ではないのか、ということですが、この状態が12カ月続けば問題がないわけでありますから。付け加えて、先程10人ということでありますか、医師の確保については産科医のことも含め議会でも期待を持って毎回話が出ますが、その辺のところも含めてお話しいただけますでしょうか。</p>
丹野院長	<p>今年度、医師が増えたことについては、いろんな要因がございます。医師の入替え等もあった中で、ちょっと減った状態で土台ができてきておりましたが、その上に少し医師が来てくれたという状況です。今後、この状況を維持し、かつ増やしていけることが重要かと思っております。このためには、医師が働きやすい環境をつくっていく、お互いにサポートできる体制をつくっていくということが大切だと考えております。実際に受け持ち患者数も医師によって差があることも事実でございますので、その辺は注視していかなければならないと思っております。ただ、ひとつの土台となる状況が出来上がったという風には捉えています。そんな中で、弘前大学からの実習の学生さんもかなり増えております。来年度の研修医の申し込みも増えております。病院というのは、半分は教育の場と考えています。このような体制が取れなければ医師が増えていかないと考えておりますので、その辺りも取り組んでいきたいと考えております。</p>
石橋会長	<p>その他にご意見等ございませんか。無いようですので、議事を終了してよろしいでしょうか。それでは、これをもちまして、報告いただいた議事を終了といたします。</p> <p>折角の機会でございます。まだ少し時間がございますので、報告事項以外でなにかご</p>

<p>小嶋委員</p>	<p>意見ありませんでしょうか。</p> <p>別に意見ではありませんが、今日、ある患者さんが私のところに来ました。診察の状況から言って、明日でもいいかなと思い、中央病院に紹介状を FAX させていただきましたが、すぐに入院させてくれという電話が来ました。非常にやる気を感じましたし、とても心強く、ありがたいと感じましたので、お伝えいたします。</p>
<p>石橋会長</p>	<p>その他、ございませんか。なければ、これをもちまして、平成 29 年度第1回経営審議회를終了いたします。皆様、ありがとうございました。</p>